

たまひい + 御前

昼・夜

第二卷

42

指揮者のために。コラの
子たちのマスキール

1 鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、
神よ。私のたまひいはあなたを慕いあえぎます。

2 私のたまひいは、神を、生ける神を求めて
渴いています。

3 私の涙は、昼も夜も、私の食べ物でした。

人が一日中

4 「おまえの神はどこにいるのか。」と私に言う間。

私はあの事などを思い起こし、
御前に私の心を注ぎ出しています。

私がああ群れといっしょに行き巡り、
喜びと感謝の声をあげて、祭りを祝う群衆とともに
神の家へとゆっくり歩いて行ったことなどを。

5 わがたまひいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか、
御前で思い乱れているのか。

神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。
御顔の救いを。

6 私の神よ。私のたまひいは御前に絶望しています。
それゆえ、ヨルダンとヘルモンの地から、
またミツアルの山から私はあなたを思い起こします

7 あなたの波、あなたの大波は、
あなたの波、あなたの大波は、
みな私の上を越えて行きました。

8 夜には、主が恵みを施し、
夜には、その歌が私とともにあります。

9 私は、わが巖の神に申し上げます。
「なぜ、あなたは私をお忘れになったのですか。
なぜ私は敵のしいたげに、嘆いて歩くのですか。」

10 私に敵対する者どもは、
私の骨々が打ち砕かれるほど、私をそしり、
一日中、「おまえの神はどこにいるか。」と
私に言っています。

11 わがたまひいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。
なぜ、御前で思い乱れているのか。
神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。
私の救い、私の神を。

12 わがたまひいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。
なぜ、御前で思い乱れているのか。
神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。
私の救い、私の神を。

13 わがたまひいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。
なぜ、御前で思い乱れているのか。
神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。
私の救い、私の神を。

14 わがたまひいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。
なぜ、御前で思い乱れているのか。
神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。
私の救い、私の神を。

15 わがたまひいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。
なぜ、御前で思い乱れているのか。
神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。
私の救い、私の神を。

16 わがたまひいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。
なぜ、御前で思い乱れているのか。
神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。
私の救い、私の神を。

涙 ← 生ける神

思い起します。

「おまえの神はどこにいるのか？」

おまえは絶望しているのか？

祈り

求めの絶望

Feminad

詩71篇

42-44

待ち望め

- 待ち望め。 (B)
- 神のみもとに行く。

3と10節.

43

1 神よ。私のためにさばいてください。
私の訴えを取り上げ、
神を恐れぬ民の言い分を退けてください。
欺きと不正の人から私を助け出してください。
2 あなたは私の力の神であられるからです。
なぜあなたは私を拒まれたのですか。
3 どうか、あなたの光とまことを送り、
私を導いてください。
あなたの聖なる山、あなたのお住まいに向かって
それらが、私を連れて行きますように。
4 こうして、私は神の祭壇、私の最も喜びとする
神のみもとに行き、
41 たてごと
立琴に合せて、あなたをほめたたえましょう。
神よ。私の神よ。
わがたましいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。
なぜ、御前で思い乱れているのか。
神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。
私の救い、私の神を。

43の後半→42前半

第巻: "木が聖なる山に生えるか?"
42では、主はわが岩だと云っているが、
第2巻からは、岩があるのになぜ拒んで
いるのか?と訴えている。
2と5節のわが岩とわが救い。
「おまえの神はどこに生えるのか」に對する
一考して
42と43篇を一緒に考えるのが
善いのは分らない。

訴え、欺きと不正

聖なる山に行ける者

1節の「欺き不正」でない者
から救われる者。

第巻の

Jemima

岩なる神

↓
救

敵
はがかりなした。
語る

王

私が自分を救ったのはな

みわざ
を
聞いた

44

指揮者のために。コラの
子たちのマスキール

1 神よ。私たちはこの耳で、
先祖たちが語ってくれたことを聞きました。
あなたが昔、彼らの時代になさったみわざを。
2 あなたは御手をもって、国々を追い払い、
そこに彼らを植え、
国民にわざわいを与え、
そこに彼らを送り込まれました。
3 彼らは、自分の剣によって地を得たのでもなく、
自分の腕が彼らを救ったのでもありません。
ただあなたの右の手、あなたの腕、
あなたの御顔の光が、そうしたのです。
4 あなたが彼らを愛されたからです。
神よ。あなたこそ私の王です。
5 ヤコブの勝利を命じてください。
6 あなたによって私たちは、敵を押し返し、
御名によって私たちに立ち向かう者どもを
踏みつけましょう。
7 私は私の弓にたよりません。
私の剣も私を救いません。
8 しかしあなたは、敵から私たちを救い、
私たちを憎む者らをはずかしめなさいました。
9 私たちはいつも神によって誇りました。
また、あなたの御名をどこしえにほめたたえます。
セラ

詩人は44篇で神様に訴えているのは、
神様は昔は共に出陣してくださって、御
顔の光で救って下さい。敵をはがかりな
したのに、今では、逆にはがかりなれ。
神様は御顔を隠して拒んで"はいてる
から"と怒る。しかし、詩人は主を忘めず、
御顔を語りこいて、頼って、主に救いを
求める。そしていよいよほめたたえる。

「神はこのようにおられる

しかし、今、どうなっている!

↓
私は同じように主に語る

↓
だから〜いってほしい」

御顔の光におる救い。
御顔を隠せばいい。

・敵をはがかりなした。
・敵ははがかりなれる。

拒

忘 け 忘

おざけり、とい

拒んだ

9 それなのに、あなたは私たちを拒み、
卑しめました。あなたはもはや、
私たちの軍勢とともに出陣なさいません。
10 あなたは私たちを敵から退かせ、
私たちを憎む者らは思うままにかすめ奪いました。
11 あなたは私たちを食用の羊のようにし、
国々の中に私たちを散らされました。
12 あなたはご自分の民を安値で売り、
その代価で何の得もなさいませんでした。
13 あなたは私たちを、隣人のそしりとし、
回りの者のあざけりとし、笑いぐさとされます。
14 あなたは私たちを国々の中で物笑いの種とし、
民の中で笑いやとされるのです。
15 私の前には、一日中、はがかりしめがあつて、
私の顔の恥が私をおおってしまいました。
16 それはそしる者とのしる者の声のため、
敵と復讐者のためでした。
17 これらのことすべてが私たちを襲いました。
しかし私たちはあなたを忘れませんでした。
また、あなたの契約を無にしませんでした。
18 私たちの心はたじろがず、
私たちの歩みはあなたの道からそれませんでした。
19 しかし、あなたはジャッカルに住む所で私たちを砕き、
死の陰で私たちをおおわれたのです。
20 もし、私たちが私たちの神の名を忘れ、
ほかの神に私たちの手を差し伸ばしたなら、
21 神はこれを探り出されないのでしょうか。
神は心の秘密を知っておられるからです。
22 だが、あなたのために、
私たちは一日中、殺されています。
23 私たちは、ほふられる羊とみなされています。
24 起きてください。
主よ。なぜ眠っておられるのですか。
目をさましてください。
いつまでも拒まないでください。
25 なぜ御顔を隠しになるのですか。
私たちの悩みとしたいげをお忘れになるのですか。
26 私たちのたましいはちりに伏し、
私たちの腹は地にへばりついていきます。
27 立ち上がって私たちをお助けください。
あなたの恵みのために
私たちを贖い出してください。

↓
q.

王は妻を祝福

↓ せざる限りなく

義 いひえの王座

↓ 国々の民

King

王 娘 息子 王妃



King +

娘、妻



とこしえ

↓ 国々の民

息子

黄金

娘

娘

娘

娘

着物

↓ 国々の民

17

45

指揮者のために。「ゆりの花」の調べに
合わせて。コラの子たちのマスキール。
愛の歌

1 私の心はすばらしいことばでわき立っている。
私は王に私の作ったものを語ろう。

2 あなたは人の子らにまさって麗しい。

3 雄々しい方よ。あなたの剣を腰に帯びよ。

4 あなたの尊厳と威光を。

5 あなたの威光は、真理と柔和と義のために、
勝利のうちに乗り進め。

6 あなたの右の手は、恐ろしいことをあなたに教えよ。

7 あなたの矢は鋭い。

8 国々の民はあなたのもとに倒れ、王の敵は気を失う。

9 神よ。あなたの王座は世々限りなく、
あなたの王国の杖は公正の杖。

10 あなたの王座は公正の杖。

11 あなたは義を愛し、悪を憎んだ。

12 それゆえ、神よ。あなたの神は喜びの油を
あなたのともがらにまして、あなたにそそがれた。

13 あなたの着物はみな、
没薬、アロエ、肉桂のかおりを放ち、
象牙のやかたから聞こえる緒琴は
あなたを喜ばせた。

14 王たちの娘があなたの愛する女たちの中にいる。
王妃はオフィルの金を身に着けて、
あなたの右に立つ。

15 娘よ。聞け。心して、耳を傾けよ。

16 あなたの民と、あなたの父の家を忘れよ。

17 そうすれば王は、あなたの美を慕おう。

18 彼はあなたの夫であるから、彼の前にひれ伏せ。

19 ツロの娘は贈り物を携えて来、
民のうちの富んだ者はあなたの好意を求めよう。

20 王の娘は奥にいて栄華を窮め、
その衣には黄金が織り合わされている。

21 彼女は綾織物を着て、王の前に導かれ、
彼女に付き添うおとめらも

22 あなたのものと連れて来られよう。

23 喜びと楽しみをもって彼らは導かれ、
王の宮殿にはいつて行く。

24 あなたの息子らがあなたの父祖に代わろう。

25 あなたは彼らを全地の君主に任じよう。

26 わたしはあなたの名を
代々にわたって覚えさせよう。

27 それゆえ、国々の民は世々限りなく、
あなたをほめたたえよう。

[平和の王、義の王]

詩人は王の偉大さを賛美するために、
まず王の徳さについて語っている。
そして次に王が義を愛し悪を憎むとい
うことを語っている。これにおいて王の威光
が表わされる。そして8節から分るように
王の着物においても王の栄光が表れ
る。そしてまた王の王妃も娘も息子も王の
偉大さ、栄光、を表わしている。



息子

敵

王は義を愛する。

王についてのソロモンの
詩篇。この詩についての序

平和

↑ あれれお果い

ミワザデク - アラビム / サ

10-17

1-9

キヤ = 教会

King+

ソロモン

詩72篇

46

指揮者のために。コラの子たちによる。
アラモテに合わせて。歌

神であることの表れ。

地

共にいてくださる主

地

神である
ることを知れ

共にいてくださる主

- 1 神はわれらの避け所、また力。
苦しむとき、そこにある助け。
- 2 それゆえ、われらは恐れない。
- 3 たとい、地は変わり山々が海のまなかに移ろうとも、
その水かさが増して山々が揺れ動いても。セラ
- 4 川がある。その流れは、
いと高き方の聖なる住まい、神の都を喜ばせる。
- 5 神はそのまなかにいまし、その都はゆるがない。
- 6 神は夜明け前にこれを助けられる。
- 7 国々は立ち騒ぎ、諸方の王国は揺らいだ。
- 8 神が御声を発せられると、地は溶けた。
- 9 万軍の主はわれらとともにおられる。
- 10 ヤコブの神はわれらのとりでである。
- 11 来て、主のみわざを見よ。
- 12 主は地に荒廃をもたらされた。
- 13 主は地の果てまでも戦いをやめさせ、
弓をへし折り、槍を断ち切り、戦車を火で焼かれた。
- 14 「やめよ。
- 15 わたしこそ神であることを知れ。
- 16 わたしは国々の間であがめられ、
地の上であがめられる。」
- 17 万軍の主はわれらとともにおられる。
- 18 ヤコブの神はわれらのとりでである。

セラ

セラ

神御自身は詩人の避け所であり、
主はわたしたちの恐れない。また、
神様は民のまなかにいてくださる
ので、民は助けられる。これは詩46で
2回くりかえされている

私の主の良のう。

王たちの主と都への服のう。

真の王

王

喜び・楽し

恵みと義を思う

恐怖・苦痛

王たち

王

主

48

歌。コラの子たちの賛歌

46 | 7 | 8

ト8と9-14

- 1 主は大いなる方。大いにはめたたえらるべき方。
- 2 高嶺の麗しさは、全地の喜び。
- 3 北の端なるシオン^{シオン}の山は大王の都。
- 4 神は、その宮殿で、ご自身をやぐらとして示された。
- 5 見よ。王たちは相つどい、
- 6 ともどもにそこを通り過ぎた。
- 7 彼らは、見るとたちまち驚き、
- 8 おじ惑って急いで逃げた。
- 9 その場で恐怖が彼らを捕えた。
- 10 産婦のような苦痛。
- 11 あなたは東風でタルシシュの船を打ち砕かれる。
- 12 私たちは、聞いたとおりを、そのまま見た。
- 13 万軍の主の都、われらの神の都で。
- 14 神は都を、とこしえに堅く建てられる。
- 15 セラ
- 16 神よ。私たちは、あなたの宮の中で、
- 17 あなたの恵みを思い巡らしました。
- 18 神よ。あなたの誉れはあなたの御名と同じく、
- 19 地の果てにまで及んでいます。
- 20 あなたの右の手は義に満ちています。
- 21 あなたがさばきがあるために、シオンの山が喜び、
- 22 ユダの娘が楽しむようにしてください。
- 23 シオンを巡り、その回りを歩け。
- 24 そのやぐらを数えよ。
- 25 その城壁に心を留めよ。その宮殿を巡り歩け。
- 26 後の時代に語り伝えるために。
- 27 この方こそまさしく神。
- 28 世々限りなくわれらの神であられる。
- 29 神は私たちをとこしえに導かれる。

"都をいかに堅くする主はここに"ある！

詩人は、都をいかに堅くする主を

大いなる王に力づけられたことを示す。

両方とも神の御国と義についての話である。

神月

三

指揮者のために。コラの子たちの賛歌

知恵、英知

財産

減ばうせる

富、栄誉

悟りが無ければ

神の国とその義とを第一におぼえたい。マテウ

たましい、住まい

神の国はどのような国なのか
マテウス・クリストが主である国
命を救うと思ふ者は
それをさう

1 すべての国々の民よ。これを聞け。
2 世界に住むすべての者よ。耳を傾けよ。
3 低い者も、尊い者も、
4 富む者も、貧しい者も、ともどもに。
5 私の口は知恵を語り、私の心は英知を告げる。
6 私はたとえに耳を傾け、
7 立券に合せて私のなぞを解き明かそう。

8 どうして私は、わざわざの日に、
9 恐れなければならぬのか。
10 私を取り囲んで中傷する者の悪意を。
11 おのれの財産に信頼する者どもや、
12 豊かな富を誇る者どもを。
13 人は自分の兄弟をも買い戻すことはできない。
14 自分の身のしる金を神に払うことはできない。
15 たましいの贖いしるは、高価であり、
16 永久にあきらめなくてはならない。

17 人はとこしえまでも生きながらえるであろうか。
18 墓を見ないであろうか。
19 彼は見る。知恵のある者たちが死に、
20 愚か者もまぬけ者もひとしく滅び、
21 自分の財産を他人に残すのを。
22 彼らは、心の中で、彼らの家は永遠に続き、
23 その住まいは代々にまで及ぶと思ひ、
24 自分たちの土地に、自分たちの名をつける。
25 しかし人は、その栄華のうちにとどまれない。

26 人は滅びうせる獣に等しい。
27 これが愚か者どもの道、
28 彼らに従ひ、彼らの言うことを受け入れる者どもの道である。

29 彼らは羊のようによみに定められ、
30 死が彼らの羊飼となる。
31 朝は、直ぐな者が彼らを支配する。
32 彼らのかたちはなくなり、
33 よみがその住む所となる。

34 しかし神は私のたましいを
35 よみの手から買い戻される。
36 神が私を受け入れてくださるからだ。
37 恐れるな。人が富を得ても、
38 その人の家の栄誉が増し加わっても、
39 人は、死ぬとき、何一つ持って行くことができず、
40 その栄誉も彼に従つて下つては行かないのだ。
41 彼が生きている間、自分を祝福できても、
42 また、あなたが幸いな暮らしをしているために、
43 人々があなたをほめたたえても、
44 あなたは、自分の先祖の世代に行き、
45 彼らは決して光を見ないであろう。

46 人はその栄華の中にあっても、悟りがなければ、
47 滅びうせる獣に等しい。

48 減ばうせる獣に等しい。

聞

知恵

ミニ伝道者の書

永遠の命

住まい

たましいの贖いしるは高価である。
しかし、主がたましいを買い戻してくださる。

人は自分が死ぬべきものだと思ふこと
は主を恐れることである。そしてそれは
知恵の始めである。しかし、主を恐れぬ
者は財産もその名譽を大切にせず
誇りかたは死ぬて終つてほう。

Job 42

主を恐れよ
神は
主を恐れよ
神は

神は
主を恐れよ
神は

死が彼らの羊飼
主。羊飼 ← 伝道者の書



感謝のいけにえ。 D

いけにえ C

主が民に語られる。 B

A

「はたために呼ばれる。」

50

アサフの賛歌

1 神の神、主は語り、地を呼び寄せられた。

2 日の上る所から沈む所まで。

3 神は光を放たれた。

4 われらの神は来て、黙ってはおられない。

5 御前には食い尽くす火があり、

6 その回りには激しいあらしがある。

7 神はご自分の民をさばくため、

8 上なる天と、地とを呼び寄せられる。

9 「わたしの聖徒たちをわたしのところに集めよ。

10 いけにえにより、わたしの契約を結んだ者たちを。」

11 天は神の義を告げ知らせる。

12 まことに神こそは審判者である。

13 「聞け。わが民よ。わたしは語ろう。

14 イスラエルよ。わたしはあなたを威めよう。」

15 わたしは神、あなたの神である。 契約

16 いけにえのことで、あなたを責めるのではない。

17 あなたの全焼のいけにえは、

18 いつも、わたしの前にある。

19 わたしは、あなたの家から、

20 若い雄牛を取り上げはしない。

21 あなたの囲いから、雄やぎをも。

22 森のすべての獣は、わたしのもの、

23 千の丘の家畜も。

24 わたしは、山の鳥も残らず知っている。

25 野に群がるものもわたしのものだ。

26 わたしはたとい飢えても、あなたに告げない。

27 世界とそれに満ちるものはわたしのものだから。

28 わたしが雄牛の肉を食べ、

29 雄やぎの血を飲むだろうか。

30 感謝のいけにえを神にささげよ。

31 あなたの誓いをいと高き方に果たせ。

32 苦難の日にはわたしを呼び求めよ。

33 わたしはあなたを助け出そう。

34 あなたはわたしをあがめよう。」

義はるはと神様は民を呼ば
おせ。おまへがわたしの神と契約を
結んだ民に語っている。その
言葉の結倫は感謝のいけに
えをささげよというこころ。
16節からは神から悪者の口を
結倫も感謝のいけにえで
ある。

義：欺。

A すべて知っている。

感謝のいけにえ。 D

23 感謝のいけにえをささげる人は、
わたしをあがめよう。
その道を正しくする人に、
わたしは神の救いを見せよう。」

24 さあ、このことをよくわきまえよ。
さもないと、わたしはおまえを引き裂き、
救い出す者もいなくなろう。

25 わたしはおまえを責める。
おまえの目の前でこれを並べ立てる。
神を忘れる者よ。

26 わたしは黙っていた。
わたしがおまえと等しい者だと
おまえは、思っていたのだ。

27 おまえは座して、おのれの兄弟の悪口を言い、
おのれの母の子をそしる。

28 こういうことをおまえはしてきたが、
わたしは黙っていた。

29 わたしは戒めを憎み、
おまえは盗人に会おうと、これとくみし、
森通する者と親しくする。

30 おまえの口は悪を放ち、
おまえの舌は欺きを仕組んでいる。

31 「何事か。おまえがわたしのおきてを語り、
わたしの契約を口にするとは。」

・ 契約を口にする敵。
・ 聖徒たち：いけにえにおいて
契約を結んだ
者たち。

黙。 契約 命 掟。 主は語り

B 神民に... 悪

きょねくだしい

罪を認める

自分の罪を知りしる。

1 神よ。御恵みによって、私に情けをかけ、
あなたの豊かなあわれみによって、
私のそむきの罪をぬぐい去ってください。
2 どうか私の咎を、私から全く洗い去り、
私の罪から、私をきよめてください。
3 まことに、私は自分のそむきの罪を知っています。
私の罪は、いつも私の目の前にあります。
4 私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、
あなたの御目に悪であることを行ないました。
それゆえ、

B

Ⓐ Ⓑ

罪ある者として母は私をみごりました。
 ああ、あなたは心のうち^{こころのうち}の眞実^{まこと}を喜ばれます。
 それゆえ、私の心の奥^{おく}に知恵^{ちえ}を教えてください。
 7 ヒソプをもって私の罪を除いてきよめてください。

49. 知恵

喜び : 罪

きよめくたい

ちやくていせいかい! ちやくてい

そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。

8 私に、楽しみと喜びを、聞かせてください。

そうすれば、あなたがお辟きになった骨が、喜ぶことでしょう。

9 御顔を私の罪から隠し、私の咎をことごとく、ぬぐい去ってください。

研

救い

○: ㅎ: <치비>

救...

14 そうすれば、罪人は、あなたのもとに帰りますように。
神よ。私の救いの神よ。
血の罪から私を救い出してください。

15 そうすれば、私の舌は、
あなたの義を、高らかに歌うでしょう。
主よ。私のくちびるを開いてください。
そうすれば、私の口は、

喜x

自分の罪を認める。

BA



16 たとい私がささげても、
まことに、あなたはいけにえを喜ばれません。
ぜんじょう
全焼のいけにえを、望まれません。
いけにえ
17 神へのいけにえは、砕かれたたましい。
砕かれた、悔いた心。

↓
碎

哈哈。

いかにえ.

② 義のいけにえ

神よ。あなたは、それをさげすまれません。

18 どうか、ご恩寵により、シオンにいつくしみを施し、

19 エルサレムの城壁を築いてください。

20 そのとき、あなたは、

21 全焼のいけにえと全焼のささげ物との、

22 義のいけにえを齎はれるでしょう。

23 そのとき、彼らは、

24 雄の子牛をあなたの祭壇にささげましょう。

新しい住まい、新しいソファが「詩の寓」
 において建てられている。そして、そなたが建
 てた時に、森のいけにえをさげす。この新しい
 たまひは、神様が「罪をよめとて」たふことあり、また、罪のためのきおのいけにえ
 建て上げられ、そして、こなたのいる、森のmittu. において。
 感謝のいけにえは、詩人、民の喜びである。そして神
 様は、おののいけにえを喜んでくださる。

オリーブの木

悪

悪

・御名を待ち望む。
・偽りを愛している。

A # 御名を待ち望む

正しい者は
悪者について
言う。

根ぎに
さえる。

A # 偽りを愛している

おまえは偽りを愛する。

52

指揮者のために。ダビデのマスکیل。
エドム人ドエグがサウルのもとに来て、
彼に告げて「ダビデがアヒメレクの家
に来た。」と言ったときに

・世の限りなく
・とこしえまで

B

A

B

A

9 私は、とこしえまでも、あなたに感謝します。
あなたが、こうしてくださったのですから。
私はあなたの聖徒たちの前で、
いつくしみ深いあなたの御名を待ち望みます。

8 しかし、この私は、
神の家にあるおい茂るオリーブの木のようだ。
私は、世々限りなく、神の恵みに拠り頼む。
7 「見よ。彼こそは、神を力とせず、
おのれの豊かな富にたより、おのれの悪に強がる。」

6 正しい者らは見て、恐れ、彼を笑う。
5 それゆえ、神はおまえを全く打ち砕き、
打ち倒し、おまえを幕屋から引き抜かれる。
こうして、生ける者の地から、
おまえを根ぎにされる。

4 欺きの舌よ。
3 おまえは、善よりも悪を、
義を語るよりも偽りを愛している。
2 欺く者よ。おまえの舌は破滅を図っている。
1 なぜ、おまえは悪を誇るのか。勇士よ。
神の恵みは、いつも、あるのだ。

セラ

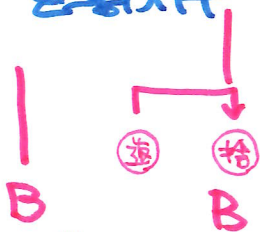
セラ

根ぎにさえる。
オリーブの木のようにだ。

「欺く者は偽りを愛している。その者は
幕屋から引き抜かれる。ゆえに、
彼は神を力とせず、富にたよる。
悪を誇るからである。しかし、正しい
者は神を待ち望み、拠り頼む。神の家で。
オリーブの木のように茂り、とこしえある。」

主の救いを喜ぶ民

「ない」 = 「捨ててる」



救いへの
応答

イスラエルは喜べ。

喜び

ヤコブは喜しめ。

神がとりこになった御民を返されるとき、↓御民を返さす。

6 ああ、イスラエルの救いが、シオンから来るように。
それは神が彼らを捨てられたからだ。

あなたは彼らをはずかしめた。

まき散らされたからだ。

それは神が、あなたに対して陣を張る者の骨を

いかに恐れたかを。

5 見よ。彼らが恐れのないところで、

神を呼び求めようとはしない。

彼らはパンを食らうように、わたしの民を食らい、↓民を食らい

不法を行なう者は知らないのか。

善を行なう者はいない。ひとりもない。

だれもかれも腐り果てている。

3 ↓彼らはみな、そむき去り、

いるかどうかをご覧になった。

神を尋ね求める、悟りのある者が

神は天から人の子らを見おろして、

善を行なう者はいない。

彼らは腐っており、忌まわしい不正を行なっている。

1 愚か者は心の中で「神はいない。」と言っている。↓神はいない

2 神は天から人の子らを見おろして、

善を行なう者はいない。

彼らは腐っており、忌まわしい不正を行なっている。

1 愚か者は心の中で「神はいない。」と言っている。↓神はいない

2 神は天から人の子らを見おろして、

善を行なう者はいない。

彼らは腐っており、忌まわしい不正を行なっている。

1 愚か者は心の中で「神はいない。」と言っている。↓神はいない

2 神は天から人の子らを見おろして、

善を行なう者はいない。

彼らは腐っており、忌まわしい不正を行なっている。

1 愚か者は心の中で「神はいない。」と言っている。↓神はいない

2 神は天から人の子らを見おろして、

善を行なう者はいない。

彼らは腐っており、忌まわしい不正を行なっている。

53

指揮者のために。「マハラテ」の調べに
合わせて。ダビデのマスキール

悟者

愚者

↓たゞおぼえる

神はいない

因

親友
敵

さかき: 求

中

15 死が、彼らをつかめばよい。
彼らが生きのまま、よみに下るがよい。
悪が、彼らの住まいの中、彼らのただ中にあるから。

敵

13 私とはなくて、おまえが。
私の同輩、私の友、私の親友のおまえが。
私たちは、いっしょに仲良く語り合い、
神の家に群れといっしょに歩いて行ったのに。

親友

とる者

中

患

11 破壊は町の真中にあり、
虐待と詐欺とは、その市場から離れません。
12 まことに、私をそしめる者が敵ではありません。
それなら私は忍べたでしょう。
私に向かつて高ぶる者が
私を憎む者ではありません。
それなら私は、彼から身を隠したでしょう。

「わわわい」

昼夜

10 彼らは屋も夜も、町の城壁の上を歩き回り、
町の真中には、罪悪と毒害があります。

患

9 主よ。どうか、彼らのことはを混乱させ、
分裂させてください。
私はこの町の中に暴虐と争いを見えています。

「バベルの塔」

セラ

呼・叫

呼 答

55

指揮者のために。弦楽器に合わせて。

1 神よ。私の祈りを耳に入れ、
私の切なる願いから、身を隠さないでください。
2 私に御心を留め、私に答えてください。
私は苦しんで、心にうめき、泣きわめいています。
3 それは敵の叫びと、悪者の迫害のためです。
彼らは私にわざわいを投げかけ、
激しい怒りをもって私に恨みをいだいています。

敵

昼夜

呼 答

戦

町の中の悪: 9-11節 15節

呼 答

平和

一日中

神を
忘れた!!

セラ

親し者

16 私、神に呼ばわると、
主は私を救ってください。
17 夕、朝、真昼、私は嘆き、うめく。
すると、主は私の声を聞いてくださる。
18 主は、私のたましいを、敵の挑戦から、
平和のうちに贖い出してください。
19 私と争う者が多いから。
昔から王座に着いている者をも。
20 彼は、自分の親しい者にまで手を伸ばし、
自分の誓約を破った。
21 彼の口は、バタよりもなめらかだが、
その心には、戦いがある。
22 あなたは抜き身の剣である。
あなたはあなたのことを心配してください。
23 しかし、神よ。あなたは彼らを、
滅びの穴に落とされましよう。
血を流す者と欺く者どもは、
おのれの日数の半ばも生きながらえないでしょう。
けれども、私は、あなたに拠り頼みます。

詩人は敵、とも親友にお攻撃
され、彼らによって苦しみ、神様は
叫びをあげて、なぜなら、神様は
身を隠すのが本場であるがために、
神様が身を隠しているかのような状況
態にあるからである。そして、詩人が叫み
ていることは、この敵たちが穴に下るこ
とである。この詩人にとっての救
いは、神さまが叫んだ時に
答えてくださることである。

友の喜ぶ

事

主に信頼 = みことば

いのちをねらう敵

ABBA

追りぞく

一日中 / 日

詩人は一日中、敵に攻撃せしめ、命をねらわれている。しかし、主に信頼している。敵を恐れず、みことばをほめたため、この後みことばとは、8章に「いのちの書(あなたの手)」で表す。この書に書かれていることは約束である。そしてこのいのちの書に書かされた敵々の神への

呼ばれる日
↓
恐れのある日

信頼

神は味方

「さばいてください」

一日中、攻撃

(A)

(B)

(A)

一日中 / 踏つけ

56

指揮者のために。「遠くの人、もの言わぬ鳩」の調べに合せて。ダビデのミクダム。ペリシテ人が、ガテでダビデを捕えたときに

- 1 神よ。私をあわれんでください。人が私を踏みつけ、一日中、戦って、私をしいたげます。
 - 2 私の敵は、一日中、私を踏みつけています。誇らしげに私に戦いをいどんでいる者が、多くいます。
 - 3 恐れのある日に、私は、あなたに信頼します。
 - 4 神にあって、私はみことばを、ほめたたえます。私は神に信頼し、何も恐れません。
 - 5 肉なる者が、私に何をなしえましょう。一日中、彼らは私のことばを痛めつけています。彼らの思い計ることはみな、私にわざわいを加えることです。
 - 6 彼らは襲い、彼らは待ち伏せ、私のあとをつけています。
 - 7 私はいのちをねらっているように。神よ。彼らの不法のゆえに、彼らを投げつけてください。
 - 8 御怒りをもって、国々の民を打ち倒してください。あなたは、私のさすらいをしるしておられます。どうか私の涙を、あなたの皮袋にたくわえてください。
 - 9 それはあなたの書には、ないのでしょか。
 - 10 神が私の味方であることを私は知っています。神にあって、私はみことばをほめたたえます。主にあって、私はみことばをほめたたえます。
 - 11 私は、神に信頼しています。それゆえ、恐れません。
 - 12 人が、私に何をなしえましょう。
 - 13 神よ。あなたへの誓いは、私の上にあります。私は、感謝のいけにえを、あなたにささげます。あなたは、私のいのちを死から、まことに私の足を、つまずきから、救い出してくださいました。
- それは、私が、いのちの光のうちに、神の御前を歩むためでした。

足

みことば
↑ 約束

「いのちの書に書かれています」

追りぞく敵

神は味方

1-28章 「一日中」

一日中

敵の中 / 穴の中

身を避ける

主の中

救

獅子の中
には

穴

国々の民の中で

賛美

あがめる

B B

天

主

1 神よ。私をあわれんでください。

私をあわれんでください。

私のたましいはあなたに身を避けていますから。
まことに、滅びが過ぎ去るまで、

私は御翼の陰に身を避けます。

2 私はいと高き方、神に呼びわります。

私のために、すべてを成し遂げてくださる神に。

3 神は、天からの送りで、私を救われます。

神は私を踏みつける者どもを、責めておられます。

神は恵みとまことを送られるのです。

4 私は、獅子の中にいます。

私は、人の子らをむさぼり食う者の中で
横になっていきます。

彼らの歯は、槍と矢、彼らの舌は鋭い剣です。

神よ。あなたが、天であがめられ、

あなたの栄光が、全世界であがめられますように。

6 彼らは私の足をねらって網を仕掛けました。

私のたましいは、うなだれています。

彼らは私の前に穴を掘りました。

そして自分で、その中に落ちました。

7 神よ。私の心はゆるぎません。

私の心はゆるぎません。

私は歌いほめ歌を歌いましょう。

8 私のたましいよ。目をさませ。

十弦の琴よ。立琴よ、目をさませ。

私は暁を呼びました。

9 主よ。私は国々の民の中にあって、あなたに感謝し、

国民の中にあって、あなたにほめ歌を歌いましょう。

10 あなたの恵みは大きく、天にまで及び、

あなたのまことは雲にまで及ぶからです。

11 神よ。あなたが、天であがめられ、

あなたの栄光が、全世界であがめられますように。

指揮者のために。「滅ぼすな。」の調へに
合わせて。ダビデのミクナム。ダビデが
サウルからのがれて洞窟にいたときに

獅子の中

国々の中

恵み・まこと

天

祈

栄光が天に表わ 前羊の前美
さる。それはあなたにいたものと同じ
かいてある。天とあなたがさる。 〇2

神様は御自力に信頼する
者を恵みとまことにおて救うてくださる。

力ある者たち

1 力ある者よ。ほんとうに、おまえたちは義を語り、
人の子らを公正にさばくのか。
2 いや、心では不正を働き、
地上では、おまえたちの手の暴虐を、
はびこらせている。

3 悪者どもは、母の胎を出たときから、踏み迷い、
偽りを言う者どもは

生まれたときからさまよっている。

4 彼らは、蛇の毒のような毒を持ち、

その耳をふさぐ耳しいのコブラのようだ。

5 これは、蛇使いの声も、

巧みに呪文を唱える者の声も、聞こうとしない。

6 神よ。彼らの歯を、その口の中で折ってください。

主よ。若獅子のきばを、打ち砕いてください。

7 彼らを、流れて行く水のように

消え去らせてください。

彼が矢を放つときは、

それを折れた矢のようにしてください。

8 彼らを、溶けて、消えていくかたつむりのように、

また、日の目を見ない、死産の子のように

してください。

9 おまえたちの釜が、いばらの火を感じる前に、

神は、生のもものも、燃えているものも、

ひとしくつむじ風で吹き払われる。

10 正しい者は、復讐を見て喜び、

その足を、悪者の血で洗おう。

11 こうして人々は言おう。

「まことに、正しい者には報いがある。

まことに、さばく神が、地におられる。」

復讐

悪者

正者

さばく神/報い

1節の力ある者たち



だとりで

だとりで

恵み

い



たれとなし
知るおに!

恵み



救い出して

救って

罪がないに
襲う

59

指揮者のために。「滅ぼすな」の調べに合せて。ダビデのミクナム。ダビデを救そうし、サウルが人々を遣わし、彼らがその家の見張りをしたときに

1 わが神。私を敵から救い出して下さい。

私に立ち向かう者が届かぬほど、

私を高く上げて下さい。

2 不法を行なう者どもから、私を救い出して下さい。

血を流す者どもから、私を救って下さい。

3 今や、彼らは私のいのちを取ろうと、

待ち伏せています。

力ある者どもが、私に襲いかかろうとしています。

主よ。それは私のそむきの罪のためでもなく、

私の罪のためでもありません。

4 私には、答がないのに、

彼らは走り回り、身を構えているのです。

どうか目をさまして、私を助けて下さい。

5 あなたは万軍の神、主。イスラエルの神。

どうか目をさまして、

すべての国々を罰して下さい。

悪い裏切り者は、だれをもあわれまないと下さい。

6 彼らは、夕べには帰って来て、大のようにはえ、

町をうろつき回る。

7 見よ。彼らは自分の口で放言し、

彼らのくちびるには、剣がある。

そして、「だれが聞くものか。」と言っている。

8 しかし主よ、あなたは、彼らを笑ひ、

すべての国々を、あざけられます。

9 私の力、あなたを私は、見守ります。

神は私のとりでです。

10 私の恵みの神は、私を迎えに来て下さい。

神は、私の敵の敗北を見せて下さい。

11 彼らを殺してしまわないでください。

私の民が、忘れることのないためです。

御力によって、彼らを放浪させて下さい。

彼らを打ち倒して下さい。

主よ。私たちの盾よ。

12 彼らの口の罪は、彼らのくちびるのことばです。くちびる↑

彼らは高慢に取りつかれるがよい。

彼らの述べる、のろいとへつらいのために。

13 激しい憤りをもって滅ぼし尽くして下さい。

滅ぼし尽くして、彼らをなくして下さい。

そうして、神が地の果て果てまでも

ヤエブを治められることを、

彼らが知るようにして下さい。

セラ

14 こうして、彼らは夕べには帰って来て、

大のようにはえ、町をうろつき回る。

15 彼らは、食を求めて、うろつき回り、

満ち足りなければ、うなる。

16 しかし、この私は、あなたの力を歌います。

まことに、朝明けには、あなたの恵みを

喜び歌います。

それは、私の苦しみの日、あなたは私のとりで、

また、私の逃げ場であられたからです。

17 私の力、あなたに、私はほめ歌を歌います。

神は私のとりで、私の恵みの神であられます。

とりで

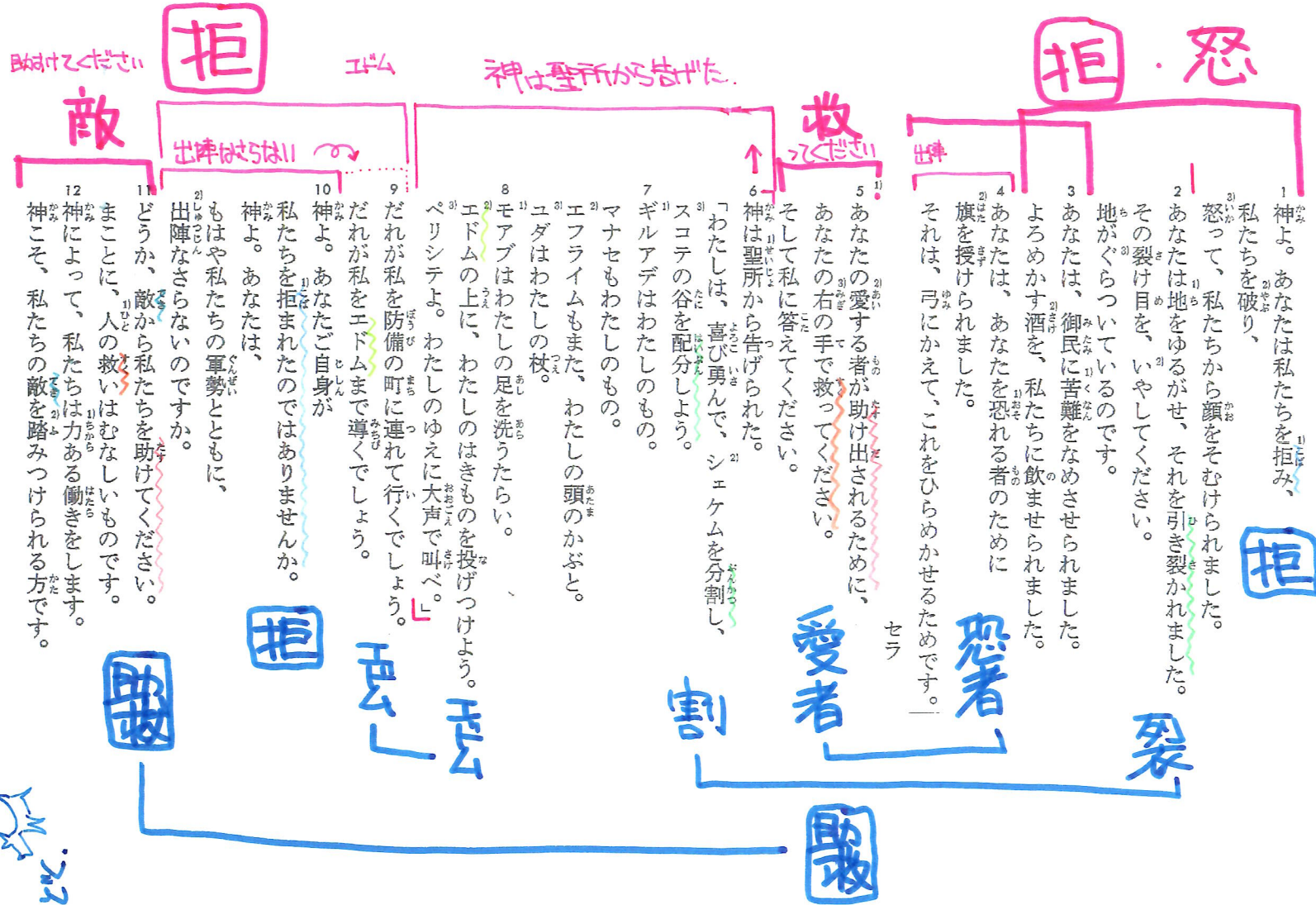
とりで

↑

↑

神は聖所から告げられた

右の手で救う。



60

指揮者のために。「さとしは、ゆりの花。」
の調べに合わせて。教えのためのダビデ
のミクタム。ダビデがアラム・ナハラ
ムやアラム・ツオバと戦っていたとき、
ヨアブが帰って来て、塩の谷でエドムを
一万二千人打ち殺したときに



指揮者のために。弦楽器に
合わせて。ダビデによる

1 神よ。私の叫びを聞き、

私の祈りを心に留めてください。

2 私の心が衰え果てるとき、

私は地の果てから、あなたに呼ばわれます。

どうか、私の及びがたいほど高い岩の上に、

私を導いてください。

3 まことに、あなたは私の避け所、

敵に対して強いやぐらです。

4 私は、あなたの幕屋に、いつまでも住み、

御翼の陰に、身を避けたいのです。

5 まことに、神よ。あなたは私の誓いを聞き入れ、

御名を恐れる者の受け継ぐ地を

私に下さいました。

6 どうか王のいのちを延ばし、

その齢を代々に至らせてください。

7 彼が、神の御前で、いつまでも

王座に着いているようにしてください。

恵みとまこととを彼に授け、

彼を保つようにしてください。

8 こうして、私は、あなたの御名を、

とこしえまでもほめ歌い、

私の誓いを日ごとに果たしましょう。

王座

A
避け所

身を避けたい

叫びを聞き

B
誓

誓い

A
王

とこしえまでも：王

B
誓

誓い

前半で詩人は、いつまでも主の避け所に
住みたいといふ。いつまでも住みたいといふこ
とは主と共にいつくたさるという事。とい
ふ半分の時に答えてくださるということである。
また、5節で心をむねているのは王が
王座につくため、王が与えられるためである。

セラ
陰
いつまでも

避け所
高い岩

いつまでも

指揮者のために。エドトンに
よって。ダビデの賛歌

5-8

「敵は力が自分のものだと思
ている」

高い地位

望

信頼

(身分)
高い人々
低い人々

望

力神

1) 私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む。
2) 神こそ、わが岩。わが救い。わがやぐら。
私は決して、ゆるがされない。

3) おまえたちは、いつまでひとりの人を襲うのか。
あたかも、傾いた城壁か、ぐらつく石垣のように。
4) まことに、彼らは彼を高い地位から
突き落とそうとたくらんでいる。
彼らは偽りを好み、
口では祝福し、心の中ではのろう。

5) 私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む。
私の望みは神から来るからだ。
6) 神こそ、わが岩。わが救い。わがやぐら。

7) 私の救いと、私の栄光は、神にかかっている。
私の力の岩と避け所は、神のうちにある。
8) 民よ。どんなときにも、神に信頼せよ。
あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。
神は、われらの避け所である。

9) まことに、身分の低い人々は、むなしく、
高い人々は、偽りだ。
はかりにかけると、彼らは上に上がる。
彼らを合わせても、息より軽い。

10) 圧制にたよるな。
略奪にむなしい望みをかけるな。
富がふえても、それに心を留めるな。
11) 神は、一度告げられた。

二度、私はそれを聞いた。
力は、神のものであることを。
12) 主よ。恵みも、あなたのものです。
あなたは、そのしわざに応じて、人に報いられます。

敵は神をよびよっているが
詩人は神に信頼し、神が望
みど、望み所であると秘している
のだ。恐ろしい。敵はにこの敵は
むなしいものである。望み所
いはない。神に信頼し、神が望
みど、望み所であると秘している。
はぐらつく石垣、やぐら、
でやぐらでやぐら。

神に信頼 ⇔ 空しい

ゆるがすれない



ぐらつく石垣

詩人は63篇において
砂漠の中で「神様を
めぐる。神様はこの者を
助けるいのちにもまさる恵み
を与えてくださるか。敵は
地の深い所においでら
れ。彼らはいのちを求め
ていたのに。滅ぼさ
れ。彼らの偽りのくちびる
はふうじられる。かれ。神
のくちびるは喜んで主を
ほめたえ。このほかに
ほめたえ。正しい者は
荒野から聖けられ
行か。悪者は苦によりけり。

偽りの口

喜

滅び

主をい出さ

主のくちびる

喜

生きている
かぎり賛
美する。

主を求め
仰ぎ見ている。

?

63

ダビデの賛歌。彼がユダの
荒野にいたときに

- 1 神よ。あなたは私の神。
私はあなたを切に求めます。
- 2 私は、あなたの力と栄光を見るために、
こうして聖所で、あなたを仰ぎ見しています。
- 3 あなたは、恵みは、いのちにもまさるゆえ、
私のくちびるは、あなたを賛美します。
- 4 それゆえ私は生きているかぎり、
あなたをほめたえ、
あなたの御名により、両手を上げて祈ります。
- 5 私のたましいが脂肪と髓に満ち足りるかのよう、
私のくちびるは喜びにあふれて賛美します。
- 6 ああ、私は床の上であなたを思い出し、
夜ふけて私はあなたを思います。
- 7 あなたは私の助けでした。
御翼の陰で、私は喜び歌います。
- 8 私のたましいは、あなたにすぎり、
あなたの右の手は、私をささえてくださいます。
- 9 しかし、私のいのちを求める者らは滅んでしまい、
地の深い所に行くでしよう。
- 10 彼らは、剣の力に渡され、
きつねのえじきとなるのです。
- 11 しかし王は、神にあって喜び、
神にかけて誓う者は、みな誇ります。

偽りを言う者の口は封じられるからです。

地の深い所

砂漠

右手

両手

渴い
たい

後半：悪者滅

恵みはいのちよりもまさる。
いのちを求める者は滅ぶ。

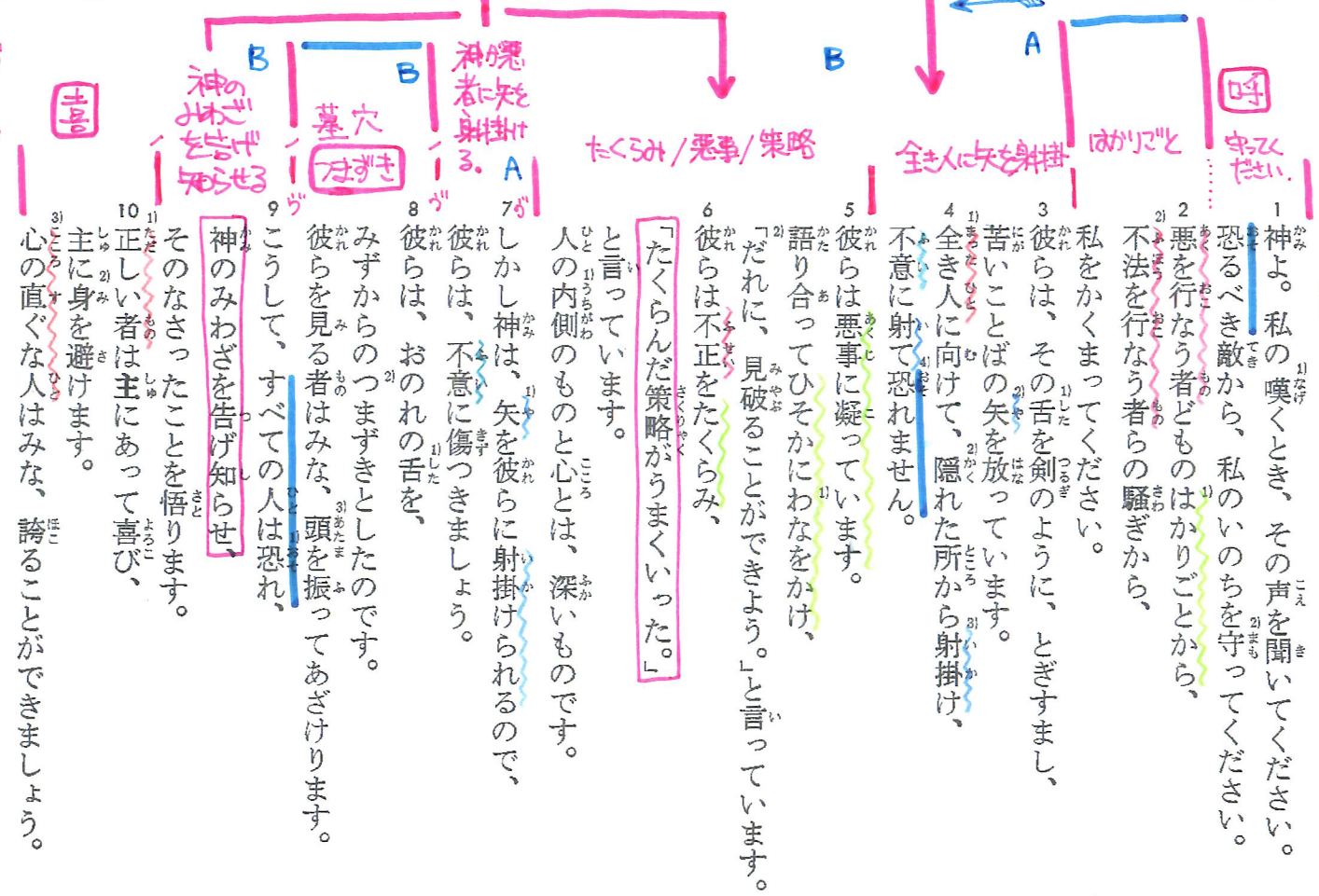
賛美・ほめたえ
↓
偽りを言う者。

- ・ 1-3 主求：くちびる喜 → 偽り (主)
- ・ 4-5 主ほめたえ：くちびる喜 →

詩64篇において
 悪者の無企みはあはれ
 その結果、正しい者の救
 いを求めている嘆きは
 喜びに変えられている。同
 様に悪者は正しい者に
 矢を向けるといかに神
 に矢を向けられて、
 たはれる。そして、これらの
 出来事は両方とも「不惑」
 に行きわたる。

喜^A

嘆^A



64

指揮者のために。ダビデの賛歌

- ・主にあって喜び正しい者
- ・嘆きを聞いてください

悪者の策略
 神のみわざ

嘆きは喜びへ



書

喜

人喜

丘喜

恵・祝福

御力・みわざ 主の家自

信頼

答救?

みもと御前

65

指揮者のために。ダビデの賛歌。歌

- 1 神よ。あなたの御前には静けさがあり、シオンには賛美があります。
- 2 あなたに誓いが果たされますように。
- 3 祈りを聞かれる方よ。
- 4 みもとにすべての肉なる者が参ります。
- 5 答が私を圧倒しています。
- 6 しかし、あなたは、私たちのそむきの罪を赦してください。
- 7 幸いなことよ。
- 8 あなたが選び、近寄せられた人、あなたの家庭に住むその人は、
- 9 私たちは、あなたの家、あなたの聖なる宮の良いもので満ち足りるでしょう。
- 10 私たちの救いの神よ。
- 11 あなたは、恐ろしい事柄をもって、義のうちに私たちに答えられます。
- 12 あなたは、地のすべての果て果て、遠い大海の、信頼の的です。
- 13 あなたは、御力によって山々を堅く建て、力を帯びておられます。
- 14 あなたは、海のとどろき、その大波のとどろき、また国々の民の騒ぎを静められます。
- 15 地の果て果てに住む者も
- 16 あなたの数々のしるしを恐れます。
- 17 あなたは、朝と夕べの起こる所を、高らかに歌うようにされます。
- 18 ↓
- 19 あなたは、地を訪れ、水を注ぎ、これを大いに豊かにされます。
- 20 神の川は水で満ちています。
- 21 あなたは、こうして地の下ごしらえをし、彼らの穀物を作ってください。
- 22 地のあぜみぞを水で満たし、そのうねをならし、夕立で地を柔らかにし、
- 23 その生長を祝福されます。
- 24 あなたは、その年に、御恵みの冠をかぶらせ、あなたの通られた跡にはあぶらがしたっています。
- 25 荒野の牧場はしたたり、
- 26 もろもろの丘も喜びをまっています。
- 27 牧草地は羊の群れを着、
- 28 もろもろの谷は穀物をおおいとしています。
- 29 人々は喜び叫んでいます。
- 30 まことに、歌を歌っています。
- 31 ↓

主の祝福

国々
恐主

国々
信頼

主のみわざ

全世界が主の家に。

神の恵みは神の御前で。そこに全世界であらわされている。みわざは。神様はすべてのものを祝福して下さるからである。その祝福とは、水や油、羊の穀物が豊に満ち足りることによってあらわされている。そのためにすべての国々は神に信頼する。



みわさ

呼答: みわさ

神が私にたい
になされたこと。

みわさ

18 もしも私の心にいく不義があるなら、
主は聞き入れてくださらない。
19 しかし、確かに、神は聞き入れ、
私の祈りの声を心に留められた。
20 ほむべきかな。神。
神は、私の祈りを退けず、
御恵みを私から取り去られなかった。

02

いけにえを通じ命
→ 動物の死 02

13 私は全焼のいけにえを携えて、あなたの家に行き、
私の誓いを果たします。
14 それは、私の苦しみの中に、
私のくちびるが言ったもの、
私の口が申し上げた誓いです。
15 私はあなたに肥えた獣の全焼のいけにえを、
雄羊のいけにえの煙とともにささげます。
雄牛を雄やぎといっしょに、ささげます。セラ

神を恐れる者
呼びかけ(?)

聞け

「詩66篇の全体のテーマとは神の御名の
栄光がどのように表わされているのか、という
ことである。その御名の栄光とは神様が天
から叫び時に答えてくださるということである。
また、国々は神のみわざを見て、主を
本、民は神様にいけにえをささげて
応答する。」

01

死を通じ命 01

10 神よ。まことに、あなたは私たちを調べ、
銀を精練するように、私たちを練られました。
11 あなたは私たちを網に引き入れ、
私たちの腰に重荷を着けられました。
12 あなたは人々に、
私たちの頭の上を乗り越えさせられました。
私たちは、火の中を通り、水の中を通りました。
しかし、あなたは豊かな所へ
私たちを連れ出されました。
→ 水を出す

死を通じ命
→ いけにえの原則?

賛美

賛美
?

神のみわざ

8 国々の民よ。私たちの神をほめたたえよ。
神への賛美の声を聞かせよ。
9 神は、私たちを、いのちのうちに保ち、
私たちの足をよろけさせない。→ 足をよろけさせない

国々の民よ
呼びかけ(?)

みわさ

賛美

あなたはみわさ

1 全地よ。神に向かって喜び叫べ。
2 御名の栄光をほめ歌い、
神への賛美を栄光に輝かせよ。
3 神に申し上げよ。
「あなたのみわざは、なんと恐ろしいことでしょう。
偉大な御力のために、
あなたの敵は、御前にへつらい服します。
4 全地はあなたを伏し拝み、
あなたにほめ歌を歌います。
あなたの御名をほめ歌います。」
5 さあ、神のみわざを見よ。
神の人の手になされることは恐ろしい。
6 神は海を変えて、かわいた地とされた。
人々は川の中を歩いて渡る。
さあ、私たちは、神にあって喜ぼう。
7 神はその権力をもってこしえに統治せよ、
その目は国々を監視される。
頑迷な者を、高ぶらせないでください。
8 国々の民よ。私たちの神をほめたたえよ。
神への賛美の声を聞かせよ。
9 神は、私たちを、いのちのうちに保ち、
私たちの足をよろけさせない。→ 足をよろけさせない

賛美

見よ

①

祝福

B

B

①

祝福

祝福 + 恐れるおに

7 神が私たちを祝福してくださいように。
地の果て果てが、ことごとく神を恐れますように。

6 地はその産物を出しました。
神、私たちの神が、

5 神よ。国々の民があなたをほめたたえ、
国々の民がこぞつて

4 国民が喜び、また、喜び歌いますように。
それはあなたが公正をもって国々の民をさばかれ、
地の国民を導かれるからです。

3 神よ。国々の民があなたをほめたたえ、
国々の民がこぞつて

2 それは、あなたの御救いが
すべての国々の間に知られるためです。

1 どうか、神が私たちをあわれみ、祝福し、御顔を
私たちの上に照り輝かしてくださいに。セラ

67

指揮者のために。弦楽器によって。
賛歌。歌

御救い
公正なさばき

「セラ」

地の果て果てが神を恐れるおに。
国々が主をほめたたえるおに。

大祭司の祝福

詩67篇で「民の救いを見え。周りの国々、全世界が主の御救いを知るおに」ということが言われており、また全体で言われているのは、国々が主をほめたたえるおに、ということである。詩人は祝福を求めているのは、それによって全世界が主を恐れるためである。



みづ

シオンに住まわれる主

散

散5林を王たち

(A)

諸

5~6 →

(B)

王

(B)

散

(A)

神の敵: 御前の散

68

指揮者のために。ダビデの賛歌。歌

- 1 神よ。立ち上がってください。
- 2 神の敵は、散りうせよ。
- 3 神を憎む者どもは御前から逃げ去れ。
- 4 煙が追い払われるように
- 5 彼らを追い払ってください。
- 6 悪者どもは火の前で溶け去るろうのように、
- 7 神の御前から滅びうせよ。
- 8 しかし、正しい者たちは喜び、
- 9 神の御前で、こおどりせよ。
- 10 喜びをもって樂しめ。
- 11 神に向かつて歌い、御名をほめ歌え。
- 12 雲に乗って来られる方のために道を備えよ。
- 13 その御名は、主。その御前で、こおどりして喜べ。
- 14 みなしこの父、やもめのさばき人は
- 15 聖なる住まいにおられる神。
- 16 神は孤独な者を家に住まわせ、
- 17 捕われ人を導き出して榮えさせられる。
- 18 しかし、頑迷な者だけは、焦げつく地に住む。
- 19 神よ。あなたが御民に先立って出て行かれ、
- 20 荒れ地を進み行かれたとき、
- 21 地は揺れ動き、天もまた神の御前に雨を降らせ、
- 22 シナイもイスラエルの神であられる神の御前で
- 23 震えました。
- 24 神よ。あなたは豊かな雨を注ぎ、
- 25 疲れきったあなたのゆずりの地を
- 26 しっかりと立てられました。
- 27 あなたの群れはその地に住みました。
- 28 神よ。あなたは、いつくしみによって
- 29 悩む者のために備えをされました。
- 30 主はみことばを賜わる。
- 31 良いおとずれを告げる女たちは
- 32 大きな群れをなしている。
- 33 万軍の王たちは逃げ去り、また逃げ去る。
- 34 そして家に居残っている女が獲物を分ける。
- 35 あなたがたは羊の通りの間に横たわるとき、
- 36 銀でおおわれた、鳩の翼。
- 37 その羽はきらめく黄金でおおわれている。
- 38 全能者が王たちをかしこで散らされたとき、
- 39 ツアルモンには雪が降っていた。
- 40 神の山はバシヤンの山。
- 41 峰々の連なる山はバシヤンの山。
- 42 峰々の連なる山々。
- 43 なぜ、おまえたちは神がその住まいとして望まれた
- 44 あの山を、ねたみ見るのか。
- 45 まことに、主はとしえに住まわれる。
- 46 神のいくさ車は幾千万と数知れず、
- 47 主がその中に、おられる。
- 48 シナイが聖の中にあるように。



王の聖所

民の賛美

神の敵

打ち砕かれる敵

国々は主を賛美: 贈り物

神は王である。この世の王達

王たちは贈り物を持ってくる。

神の力が示めされる

主をほめたる者たち

(救いの神)

- 18 あなたは、いと高き所に上り、
- 19 捕われた者をとりこにし、
- 20 人々から、みつぎを受けられました。
- 21 頑迷な者どもからさえも。
- 22 神であられる主が、そこに住まわれるために、
- 23 重荷をになわれる主。
- 24 私たちの救いであられる神。
- 25 神は私たちの救いであられる神。
- 26 死を免れるのは、私の主、神による。
- 27 神は必ず敵の頭を打ち砕かれる。
- 28 おのれの罪過のうちを歩む者の毛深い脳天を。
- 29 主は仰せられた。
- 30 「わたしはバシヤンから彼らを連れ帰る。
- 31 わたしは海の底から連れ帰る。
- 32 それは、あなたが、足を血に染めて、
- 33 彼らを打ち砕くために。
- 34 あなたの犬の舌が敵からその分け前を得るために。
- 35 神よ。人々は、あなたの行列を見ました。
- 36 聖所がわが王が神の行列を。
- 37 歌う者が先に立ち、楽人があとになり、
- 38 その間にタンバリンを鳴らしておとめらが行く。
- 39 「相つどうて、神をほめたたえよ。
- 40 イスラエルの泉から出た者よ。主をほめたたえよ。」
- 41 そこには、彼らを導く末子のベニヤミンがおり、
- 42 その群れの中にはユダの君主たち、
- 43 ゼブルンの君主たち、ナフタリの君主たちもいる。
- 44 神よ。御力を奮い起こしてください。
- 45 私たちのために、事を行なわれた神よ。
- 46 御力を示してください。
- 47 エルサレムにあるあなたの宮のために、
- 48 王たちは、あなたに贈り物を持って来ましよう。
- 49 30 章の中の歌、それに、国々の民の子牛とともにいる
- 50 雄牛の群れを、叱ってください。
- 51 銀の品々を踏み汚す
- 52 雄牛
- 53 戦いを喜び、国々の民を散らしてください。
- 54 使節らはエジプトから来、
- 55 クシユはその手を
- 56 神に向かつて急いで差し伸べず。
- 57 32 この世の王国よ。神に向かつて歌え。
- 58 主に、ほめ歌を歌え。
- 59 33 昔から、いと高き天に乗っておられる方に向かい、
- 60 ほめ歌を歌え。
- 61 聞け。神は御声を発せられる。力強い声を。
- 62 神の力を認めよ。
- 63 みいつはイスラエルの上に、御力は雲の上にある。
- 64 神よ。あなたはご自身の聖なる所におられ、
- 65 恐れられる方です。
- 66 イスラエルの神こそ
- 67 力と勢いとを御民にお与えになる方です。
- 68 ほむべきかな。神。

主である神様の王

より、敵をさばき、弱

者を救われる。それ

おいて、御前より民を

この王たちも主をほめた

た。主をほめた

主に贈り物を持ってくる。

タンバリンを鳴らして、この世の王達は、本物の王を知る。

契約の箱。立ち上がってください。バシヤン。民10: 主を散らすよ。

指揮者のために。「ゆりの花」の調へて
合わせて。デビデの調へ

A B

大水・穴

えい。私の顔は悔いよく
おめあしている。 B

A

大水・穴 B

大水・穴 B A

1 神よ。私を救ってください。
2 水が、私の¹のどにまで、はいって来ましたから。
3 私は²深い泥沼に沈み、足がかりがありません。
4 私は大水の底に陥り、
5 浮流が私を押し流しています。
6 私は呼ばわって疲れ果て、³のどが渇き、
7 私の目は、わが神を待ちわびて、表え果てました。
8 ゆえなく私を憎む者は私の髪の手より多く、
9 私を滅ぼそうとする者、
10 偽り者の私の敵は強いのです。
11 それで、私は盗まなかった物をも
返さなければならぬのです。
12 神よ。あなたは私の愚かしさをご存じです。
13 私の数々の罪過は、あなたに隠されてはいません。
14 万軍の神、主よ。あなたを待ち望む者たちが、
15 私のために恥を見ないようにしてください。
16 イスラエルの神よ。あなたを慕い求める者たちが、
17 私のために卑しめられないようにしてください。
18 私は、あなたのためにそしりを負い、
19 侮辱が私の顔をおおっていますから。
20 私は自分の兄弟からは、のけ者にされ、
21 私の母の子らにはよそ者となりました。
22 それは、あなたの家を思う熱心が私を食い尽くし、
23 あなたをそしめる人々のそしりが、
24 私に降りかかったからです。
25 私が、断食して、わが身を泣き悲しむと、
26 それが私へのそしりとなりました。
27 私が、荒布を自分の着物とすると、
28 私は彼らの物笑いの種となりました。
29 門にすわる者たちは私のうわさを話しています。
30 私は酔いどれの歌になりました。
31 しかし主よ。この私は、あなたに行ります。
32 神よ。みこころの時に、
33 あなたの豊かな恵みにより、
34 御救いのまことをもって、私に答えてください。
35 私は泥沼から救い出し、
36 私が沈まないようにしてください。
37 私を憎む者ども、また大水の底から、
38 私が救い出されるようにしてください。
39 大水の流れが私を押し流さず、
40 深い淵は私をのみこまず、
41 穴がその口を
42 私の⁴上で閉じないようになってください。
43 主よ。私に答えてください。
44 あなたの恵みはまことに深いのです。
45 あなたの豊かなあわれみにしたがって
46 私に御救いを向けてください。
47 あなたのものに御救いを願うのでなく、
48 私は苦しんでいます。早く私に答えてください。
49 どうか、私のたましいに近づき、贖ってください。
50 私の敵のゆえに、私を贖ってください。

敵のえい。→ 主をほめたまえる。

えい。侮辱。 B

A

えい。侮辱。 B
↑ 主をほめたまえる。

B

主をほめたまえる。

祝福 A

世を継ぐ

19 あなたは私へのそしりと、
20 私の恥と私への侮辱とをご存じです。
21 私に敵対する者はみな、あなたの御前にいます。
22 そしりが私の心を打ち砕き、
23 私は、ひどく病んでいます。
24 私は同情者を待ち望みましたが、ひとりもいません。
25 慰める者を待ち望みましたが、
26 見つかることはできませんでした。
27 彼らは私の食物の代わりに、苦味を与え、
28 私が渇いたときには酔を飲ませました。
29 彼らが栄えるときには、それが落とし穴となれ。
30 彼らの前の食卓はわなとなれ。
31 彼らが栄えるときには、それが落とし穴となれ。
32 彼らの目は暗くなって、見えなくなれ。
33 彼らの腰をいつもよるけさせてください。
34 あなたの憤りを彼らの上に注いでください。
35 あなたの燃える怒りが、
36 彼らに達いつくようにしてください。
37 彼らの陣営を荒れ果てさせ、彼らの宿営には
38 だれも住む者がないようにしてください。
39 彼らはあなたが打った者を迫害し、
40 あなたに傷つけられた者の痛みを
41 数え上げるからで。
42 どうか、彼らの咎に咎を加え、
43 彼らをあなたの義の中に入れないうでください。
44 28 彼らがいのちの書から消し去られ、
45 正しい者と並べて、書きしるされること
46 ありませんように。
47 しかし私は痛み、痛んでいます。
48 神よ。御救いが私を高く上げてくださるように。
49 私は神の御名を歌をもってほめたたえ、
50 神を感謝をもってあがめます。
51 それは雄牛、
52 角と割れたひすめのある若い雄牛にまさって
53 主に喜ばれるでしょう。
54 心の貧しい人たちは、見て、喜べ。
55 神を求め求める者たちよ。あなたがたの心を生かせ。
56 主は、貧しい者に耳を傾け、
57 その捕われ人らをさげすみなさらないのだから。
58 天と地は、主をほめたたえ。
59 海とその中に動くすべてのものも。
60 まことに神がシオンを救い、
61 ニダの町々を建てられる。
62 こうして彼らはそこに住み、
63 そこを自分たちの所有とする。
64 主のしもへの子孫はその地を受け継ぎ、
65 御名を愛する者たちはそこに住みつこう。

win

急救

慕い求める者
「いいい」

滅びいる者「あはは」

急救

・わざわいを喜ぶ。
・神をあがめる。

70

指揮者のために。ダビデによる。
記念のために

1 神よ。私を救い出してください。

A 主よ。急いで私を助けてください。

2 私のいのちを求める者どもが、

恥を見、はずかしめを受けますように。

私のわざわいを喜ぶ者どもが

退き屏しめられますように。

3 「あはは。」とあざ笑う者どもが、

B おのれの恥のためにうしろに退きますように。

4 あなたを慕い求める人がみな、

あなたにあつて楽しみ、喜びますように。

あなたの救いを愛する人たちが、

B 「神をあがめよう。」と、いつも言いますように。

5 私は、悩む者、貧しい者です。

神よ。私のところに急いでください。

あなたは私の助け、私を救う方。

A 主よ。遅れないでください。

年老の時も見捨てないで

若いころから信頼している

助けけてください

71

岩なる神

1 主よ。私はあなたに身を避けています。
 2 私が決して恥を見ないようにしてください。
 3 あなたの義によって、私を救い出し、私を助け出してください。
 4 あなたの耳を私に傾け、私をお救いください。
 5 私の住まいの岩となり、強いとりでとなつて、私を救ってください。
 6 あなたこそ私の神、私のとりです。
 7 わが神よ。私を悪者の手から助け出してください。不正をする者や残虐な者の手からも。
 8 神なる主よ。
 9 あなたは、私の若いころからの私の望み、私の信頼の的でした。
 10 私は生まれたときから、あなたにいだかれていました。
 11 あなたは私を母の胎から取り上げた方。
 12 私はいつもあなたを賛美しています。
 13 私は多くの人にとっては奇蹟と思われました。
 14 あなたが、私の力強い助け所だからです。
 15 私の口には一日中、あなたの賛美と、あなたの光栄が満ちています。
 16 年老いた時も、私を見放さないでください。
 17 私の力の衰え果てたとき、私を見捨てないでください。
 18 私の敵が私のことを話し合い、私のいのちをつねねらう者どもが共にたくらんでいるからです。
 19 彼らはこう言っています。
 20 「神は彼を見捨てたのだ。追いかけて、彼を捕えよ。救い出す者はいないから。」
 21 神よ。私から遠く離れないでください。
 22 わが神よ。急いで私を助けてください。
 23 私をなじる者どもが恥を見、消えうせまうように。
 24 私を痛めつけようとする者どもが、そしりと侮辱で、おおわれまうように。
 25 しかし、私自身は絶えずあなたを待ち望み、いよいよ切に、あなたを賛美しよう。

早

?

あなたのほけした大いなること

義のわざを語り告げろ

2 岩なる神に
 3 敵からの救
 4 ぬきは、彼等
 5 主を望みは
 6 した時に見捨て
 7 ることと神様にお
 8 ん、なほは、敵は
 9 害をあたへる者
 10 るからである。神
 11 彼等が恥を受け
 12 るにむけは、それ
 13 義を告げ知らせ、
 14 神のわざを語り
 15 告げて実現する。

13 私の口は一日中、あなたの義と、あなたの救いを語り告げましよう。
 14 私は、その全部を知ってはおりませんが。
 15 神なる主よ。
 16 私は、あなたの大能のわざを携えて行き、あなたの義を、ただあなただけを心に留めましよう。
 17 神よ。あなたは、私の若いころから、私を救えてくださいました。
 18 私は今もなお、あなたの奇しいわざを告げ知らせています。
 19 年老いて、しらがになつていても、神よ、私を捨てないでください。
 20 私はなおも、あなたの力を次の世代に、あなたの大能のわざを、後に来るすべての者に告げ知らせます。
 21 神よ。あなたの義は天にまで届きます。
 22 あなたは大いなることをなさいました。
 23 神よ。だれが、あなたと比べられましようか。
 24 あなたは私を多くの苦しみと悩みとに、会わせなさいましたが、私を再び生き返らせ、地の深みから、再び私を引き上げてくださいます。
 25 あなたが私の偉大さを増し、ふり向いて私を慰めてくださいますように。
 26 私もまた、六弦の立琴をもつて、あなたをほめたたえます。
 27 わが神よ。あなたのまことを。
 28 イスラエルの聖なる方よ。
 29 私は、立琴をもつて、あなたにほめ歌を歌います。
 30 私があなたにほめ歌を歌うとき、私のくちびるは、高らかに歌います。
 31 また、あなたが讀み出された私のたましいも。
 32 私の舌もまた、一日中、あなたの義を言い表わしましよう。
 33 それは彼らが恥を見、私を痛めつけようとする者どもがはずかしめを受けるからです。

書

第二卷

イスラエルの神の民としての責任

49 55 54 60

貧しい者 / 義

主

豊かさ

貧しい者

貧弱者

貧弱者

ひた伏す

豊かさは平和

72

ソロモンによる

1 神よ。あなたの公正を王に、
あなたの義を王の子に授けてください。
2 彼があなたの民を義をもって、
あなたの、悩む者たちを
公正をもってさばきますように。
3 山々、丘々は義によって、
民に平和をもたらしますように。
4 彼が民の悩む者たちを弁護し、
貧しい者の子らを救い、
5 しいたげる者どもを、打ち砕きますように。
6 彼らが、日と月の続くかぎり、代々にわたって、
あなたを恐れますように。
7 彼は牧草地に降る雨のように、
地を潤す夕立のように下って来る。
8 彼の代に正しい者が栄え、
月のなくなるときまで、
9 豊かな平和がありますように。
10 また、川から海に至るまで、
11 統べ治めますように。
12 荒野の民は彼の前にひざをつき、
彼の敵はちりをなめますように。
13 タルシシュと島々の王たちは贈り物をささげ、
シニバとセバの王たちは、みつぎを納めましょう。
14 こうして、すべての王が彼にひれ伏し、
すべての国々が彼に仕えましょう。
15 これは、彼が、助けを呼び求める貧しい者や、
助ける人のない悩む者を救い出すからです。
16 彼は、弱っている者や貧しい者をあわれみ、
貧しい者たちののちを救います。
17 彼はしいたげと暴虐とから、
彼らのいのちを贖い出し、
18 彼らの血は彼の目に尊ばれましょう。
19 それゆえ、彼が生きたがえ、
20 彼にシエバの黄金がささげられますように。
21 彼のためにいつも彼らは祈り、
22 町の人々は地の青草のように栄えますように。
23 彼の名はとこしえに続き、
24 その名は目の照るかぎり、いや増し、
25 人々は彼によって祝福され、
26 すべての国々は彼をほめたたえますように。
27 ほむべきかな。神、主、イスラエルの神。
28 ただ、主ひとり、奇しいわざを行なう。
29 とこしえに、ほむべきかな。その栄光の御名。
30 その栄光は地に満ちわたれ。
31 アーメン。アーメン。
32 エッサイの子ダビデの祈りは終わった。

神様の王様は義の王様。義は王が貧しい者を救うということ。それによって平和がもたらされ、敵もその正しい王に心をなやましめ、神の恵みを受ける。神の恵みは祝福のいばからでぬ。

貧しい者が助けられ、正しい者が栄える。